大島特産園芸作物における生産振興技術対策

【研究概要】

クチナシや地域特産作物の生産振興を図るため、ポストハーベスト技術、隔離床栽培技術及び病害虫管理技術の開発に取り組む。

（１）クチナシについて、収穫時期が品質に及ぼす影響を調査した結果、早めの切り前で収穫すると黄化が抑制される一方、遅めの切り前で収穫すると観賞期間が短くなることが明らかとなった。また、隔離床栽培では、粒状アクアフォーム区の収量は土耕栽培の約８割であったが、収穫時期が早まることが確認された。

（２）ツバキを加害する害虫の発生状況を調査した結果、利島ではハスオビエダシャクは 2023 年度以降横ばいであるが、トビモンオオエダシャクは 2024 年以降微増している。大島ではチャドクガ幼虫の発生密度が前年より減少した。

（３）ブバルディアの隔離床栽培技術について検討したが、培地温度の上昇によると考えられる枯凋が発生し、十分な試験結果は得られなかった。